

論文の書き方のコツ

小沢 道紀

1. 論文とは

論文とは、あるテーマに沿った「仮説」を「検証」し、文章にするもの。

- テーマ
「興味のある事」、「良くわからない事」、「良くわからないと言われている事」など。
- 「仮説」
テーマの内容・結論の答えを予測して作るもの。
- 「検証」
仮説が正しいかどうか、それを調べていくこと。
- 方法
(1) 最初に結論を明示し、途中で事象を用いて証明し、再度結論の明示
(2) 事象を用いて構成し、最後に証明をする
- 注意点
「仮説」「検証」の際には、論理的に考えなければならない。
(例1): 結論 A = 要素 X + 要素 Y + 要素 Z . . .
(例2): 要素 X = 要素 X1 + 要素 X2 + 要素 X3 . . .

2. 論文の構成

起承転結がはっきりとしていて、「仮説」をきれいに「証明」するように構成する。

- 構成のコツ
大きな範囲から小さな範囲へ範囲を狭める方法。
例：社会の流れ テーマの流れ テーマの個々の状況。
小さな部品を組み立てて、最後に大きなものを作る方法。
例：個々の状況 テーマの状況
重要な部品の幾つかを例示して、それで組み立てる方法。
例：三つの部品 部品 A 部品 B 部品 C 三つの部品を見ると
- 論文の一般的な構成
はじめに
テーマを巡る状況 + なぜやるのか + 証明される結論
長くて1枚程度
内容
証明するための部品（調査したこと・調べたこと）

おわりに

内容の復習 + 証明された結論 + 今後の目標

長くて2枚

- 論文中の文章の構成

文中の文章も、全体だけでなく、起承転結を意識する。文章全てに起承転結が入っていると、良い論文になる。それは、個々の部品についても同じ。

例：はじめに

第1章 X

X のはじめに

第1節 X1

X1 のはじめに

X1 の内容

X1 のおわりに

第2節 X2

(…以下略…)

X のおわりに

第2章 Y

(…以下略…)

おわりに

- 重要な点

内容の順序によっては、読み手にとってよくわからないこともある。

最初に「仮説」をもって、構成を予測して作ってしまうと、その後が楽。

3 . 悪文

良い文章の反対の文章。裏返すと良文。

- 自己満足

読み手がいることを予測していない。書いたことで満足している文章。

予防：書いたら読み直し、文章を推敲する。

- 読みにくさ

よく読むとわかるのだが、ちょっと見ただけでは意味不明の文章。

予防：テーマごとに段落を分ける。

- 主観的

言葉の使い方など、人によって違うことを意識していない文章。

予防：一般的な言葉を使う。人に読んでもらう。

- 長文

とにかく一文が長い文章。

予防：起承転結を考え、部品が大きい場合は、さらに小さく分ける。
場合によっては、注釈を活用する。

- 注意点

人の文章を読むと悪文は良くわかるのだが、自分で書くとわからないことが多い。色々な人や内容の文章を読んで、自分が読みたくないタイプの文章を避けることが重要。

4．細かな注意点

文体は、「だ」「である」など断定形。

言葉で伝えにくいものは、図表を使う。

情報の多いテーマを選ぶ。

読み手のことを考える。